

中田「虫追い踊り」沿革

↔ 中断～復活～終焉 ↔

大正時代に入り、中田地区の虫追い踊り・幟竿行列という一連の虫追い祭りとして行われていた催しは、突如中断されています。この頃から日本は、戦争・戦禍の時代へ突き進んでいきます。

昭和39年の東京オリンピックが終わり、郷土芸能の振興復活ブームに伴い、昭和40年に野中儀三次氏の指導のもと、中田地区青年団(団長・池田義男氏)により約50数年ぶりに、虫追い踊りのみ復活を果たしました。その年は、新和町青年団主催の「ふるさとの祭典」において、町内各地で復活した虫追い踊りを披露。翌41年4月には、菅原神社で虫追い踊りが奉納され、住民全員で復活を喜びあったとのことでした。

また、同年9月の天草五橋開通式の際は、開通を祝い、踊りを披露しました。昭和48年には天草郡市青年団郷土芸能大会で優勝し、熊本県大会にも出場し6位入賞を果たしました。その様子がテレビで放映され、50数年もの間、この虫追い踊りを温め続けられていた野中儀三次氏も大変喜ばれたそうです。

復活後の虫追い踊りは、中田地区青年団員で毎年虫追い祭りの際、これまでと同じ行程で踊っていました。しかし、その後は青年団員の減少などにより、OBや高校生、小中学生やその保護者の皆さんから支援を受けつつ、中田地区全体の「宝」として継続されてきましたが、時代の流れによる少子高齢化に伴う担い手不足などにより平成29年4月、復活から50年続いた虫追い踊りも最後を迎えてしまいました。

最後は昔に準え、大幟を2竿用意し、五色の吹流しが揺らめく中、入江新田を練り歩き、中田地区住民に名残惜しく見守られながら、その幕を閉じました。

現在は、菅原神社の氏子により虫追い祭りの神事のみが執り行われています。

あゆみ

1700年頃	江戸時代 (元禄)	虫追い踊りが始まったと推測される
1910年頃	大正初期	虫追い踊りが中断する
1965年	昭和40年	中田地区青年団が野中儀三次氏の指導のもと、復活させる
	同年9月	青年団ふるさとの祭典で披露
1966年	昭和41年4月	中田地区で虫追い踊りを奉納
	同年9月	天草五橋開通式出演
1970年	昭和45年4月	天草招魂祭出演
1973年	昭和48年2月	天草郡市郷土芸能大会優勝
	同年2月	八代市青協郷土芸能大会特別出演
	同年3月	本渡市青協郷土芸能大会特別出演
	同年9月	熊本県総合青年祭、郷土芸能部門6位入賞 熊本県青年会議所主催の「JCと県民の夕べ」参加し、RKKテレビで放映され、県内に知れ渡る
2007年	平成19年2月	新和中の生徒が「第3回熊本県子ども民俗芸能大会」に出演し、中田の虫追い踊りを披露(熊本県立劇場)
2017年	平成29年4月	約300年ほど続いた虫追い踊りが幕を閉じる

時代参考	
1687年(貞享4年)	……… 五代将軍 綱吉による「生類憐みの令」
1702年(元和15年)	……… 赤穂浪士討ち入り
1914年(大正3年)	……… 第一次世界大戦